



© 2013 BANDAI VISUAL, BITTERS END, OFFICE

## 中国大衆が見つめる成長の軌み 「罪の手ざわり」

監督・脚本／ジャ・ジャンクー 撮影／ユー・リクウワイ 音楽／リン・チャン 美術／リュウ・ウエーシン プロデューサー／市山尚三 出演／チャオ・タオ、チャン・ウーワン、バオチャン、ルオ・ランシヤン、チャン・ジャイ、リー・モン、ハン・サンミン 中国語題／天注定 英語タイトル／A Touch of Sin 中国語 126分 第66回カンヌ国際映画祭脚本賞／2013年フランス映画批評家協会賞 最優秀外国映画賞 5月31日東京 渋谷Bunkamura シネマほか全国順次ロードシヨウ

映画の紹介



◆20世紀末から21世紀初めにかけての歴史を書く人は、この時代における中国の急速な膨張と変化、経済的拡大を強調するだろう。だが急成長は軋みを伴う。軋みは、強度の圧力や暴力の形をとって人びとを襲う。

広大な中国大陸では、毎日何千、何万という暴力犯罪が起こっていることだろう。ジャ・ジャンクーは、実際に社会の片隅で起きた互いに無関係な四つの暴力事件をつなぎ合わせて、今日の中国を包括的に描くという課題に挑み、みごとな成果を挙げた。ここでは、少数民族への弾圧など、政治的暴力が取り上げられているわけではない。しかし、将来21世紀の中国を論じ、研究する者は、この映画をそのための重要な資料とすることができよう。

◆山西省の炭鉱夫ダーハイは、かつての同級生ジャオが実業家として成功し、村の共同所有だった炭鉱の利益を独占していることに腹を立てている。彼は村長と助役もジャオから金を受け取っていると信じこんでいる。ある日ジャオに「北京に行ってお前の不正を暴いてやる」と言つて、ジャオの手下から手ひどく殴られる。後から見舞いの札束が届くが、怒りが収まらないダーハイは、猟銃を持ち出して助役、村長、ジャオの3人を次々に撃ち殺してしまふ。

◆第2話。山西省の山道でバイクに乗ってダーハイとすれ違ったチョウは、3人組の強盗に襲われるが逆にピストルで3人を射殺する。母親と妻と幼い息子が待つ故郷重慶に

帰ったチョウは、家では孝行息子でよき夫だ。いつも出稼ぎ先からかなりの額を送金するが、何の仕事をしているかは決して言わない夫が実は常に銃を携帯していることを、妻は知っている。翌朝、旅支度をして家を出たチョウは、銀行から現金を引き出した老夫婦を射殺して金を奪い、そのまま宜昌行きの長距離バスに飛び乗る。

◆第3話。宜昌では、同じバスから降りた中年サラリーマンが、喫茶店でシャオユーという女と待ち合わせる。2人は深い仲だが、男には妻がいて、女は男の煮え切らない態度を責める。シャオユーは宜昌で風俗サウナ店の受付係をしているが、ある日2人のしつこい男客に性的サーヴィスを強要され、札束で顔を叩かれて逆上し、思わず手にしたナイフで相手を刺し殺してしまふ。返り血を浴びたシャオユーの姿がすさまじい(ジャ・ジャンクー監督のミュージズといわれる女優チャオ・タオが力演)。

◆第4話は広東省東莞のキャバレーで働く少女を愛しながら、工場でのトラブルから自殺に追い込まれる若者の話。続くエピソードでは、数年後のシャオユーが最初の山西省の炭鉱村に姿を現わし、街頭の大衆劇を見ているという場面。劇中の裁判官役が「汝、罪を知るべし」と唱えると、カメラは見物人たちの表情を大きく映し出す。追い詰められて罪を犯した同胞を、人民大衆はどのような気持ちで見つめているのかと、映画はきびしく問いかけて終る。

本野義雄 (もとの・よしお／本誌編集委員)